

第13回岡崎市水道事業及び下水道事業審議会 会議録

1 会議の日時

令和2年10月28日（水）午後2時から午後4時まで

2 会議の場所

岡崎市消防本部3階講堂

3 会議の議題

- (議題1) 令和元年度水道事業及び下水道事業決算の概要（下水道事業経営ビジョンの進捗状況）について
(議題2) 水道ビジョンの進捗状況について
(議題3) 上下水道ビジョンの策定について

4 出席委員の氏名

(1) 出席委員（10名）

学識経験を有する者	丸山 宏 (会長)	愛知産業大学経営学部 学部長・教授
	冨永 晃宏 (副会長)	国立大学法人名古屋工業大学大学院 教授
	内藤 公士	公認会計士
	牧野 守	弁護士
水道又は下水道の使用者	稲垣 栄子	岡崎商工会議所
	宮本 大介	岡崎市六ツ美商工会
	鈴木 純子	あいち三河農業協同組合
	笹部 耕司	連合愛知三河中地域協議会
公募した市民	木俣 弘仁	
	内田 裕子	

5 説明のため出席した事務局職員の職氏名

水道事業及び下水道事業管理者 伊藤 茂、
上下水道部長 荻野恭浩、上下水道部次長（総務課長） 鈴木洋人、
経営管理課長 小林也寸志、サービス課長 岡本秀樹、
水道工事課長 神谷秀樹、水道浄水課長 小林立明
下水施設課長 藤野真司、下水工事課長 冨永道彦、
経営管理課副課長 松谷朋征、総務課副課長 金原和美、
経営管理課企画調整係係長 鈴木亨一郎、経営管理課経営1係係長 棚岡伸一

経営管理課経営2係係長 神尾清達、総務課総務係係長 飛田晃宏、
経営管理課企画調整係 松永賢治、経営管理課企画調整係 本多 広昌

6 会議の成立

事務局から、委員総数10名のうち10名が出席のため、岡崎市水道事業及び下水道事業条例第6条第2項の規定により、会議が成立していることを報告した。

7 会議の公開

本日の会議を公開することとした。(傍聴者2名)

8 会議録署名委員の指名

会議録署名委員に、稲垣 栄子 委員を指名した。

9 議事の要旨

(議題1) 令和元年度水道事業及び下水道事業決算の概要(下水道事業経営ビジョンの進捗状況)について

資料1に基づき、事務局が説明した。

事務局の説明後、次の趣旨の質疑がなされた。

(A委員)

2ページで給水人口が減少したとあるが、岡崎市の人口は右肩上がりでまだ増えていると思う。給水戸数も増えているのに給水人口だけが減っているのは何か理由があったのですか。

(事務局)

岡崎市全体の人口は、平成29年度から平成30年度は増加しましたが、令和元年度は、平成30年度に比べて781人減少しました。給水人口は、市の人口に連動していますので、そういった動きにより減少したものと思われます。

(B委員)

給水人口が減少しているというのは理解しましたが、給水戸数が増えているのは、核家族化など家族数が増えているということでしょうか。

(事務局)

市全体の戸数も平成30年度から令和元年度までに1,286戸増えており、そういった状況があるのではないかと考えています。

(C委員)

8ページの下水道事業の有収率の増減が0.1%減となっているのは、0.1%増の誤りでしょうか。

(事務局)

0.1%の増であり、資料の誤りです。訂正をお願いします。

(議題2) 水道ビジョンの進捗状況について

資料2に基づき、事務局が説明した。

事務局の説明後、次の趣旨の質疑がなされた。

(D委員)

6ページの29番の市民アンケートについてですが、上下水道ビジョン案を見ると60代・70代が半分以上になっていますが、なぜでしょうか。

(事務局)

アンケートの結果、ご回答いただいた方がたまたまその年代に多かったためです。

(D委員)

アンケートの対象者は無作為に選んだのでしょうか。

働き手の30代・40代の方がどう思っているか、子供のことを考えている親はどのように考えているかが知りたいので、アンケートではそのような方の意見もとれるように考えていただけるといいのではないかと思います。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。

今回のアンケートの対象者は、水道利用者から無作為に抽出したのですが、今後アンケートを実施する際には、ご意見を参考にさせていただきます。

(A委員)

7ページの43番に、水道局職員の能力向上とあって、令和元年度の実績にテクニカルエキスパートとありますが、何か資格があって、職員がエキスパートになっているということですか。

(事務局)

テクニカルエキスパートは、技能業務職員を対象として、技術を有した方、20年以上水道事業に従事した方などを認定し、職場での指導・助言を始め、技術の継承に積極的に関与してもらっています。

(E委員)

3ページの7番の実績に「簡易耐震診断を32施設、詳細耐震診断を5施設」とありますが、簡易耐震診断と詳細耐震診断はどのような関係のものですか。

(事務局)

簡易耐震診断は、施設の耐震性の概略を調べる調査で、詳細耐震診断は、その施設の耐震性の詳細を調べるもので、耐震性の有無は、詳細耐震診断で判断します。

ただ、詳細耐震診断は調査費用が高いことから、優先順位をつけて耐震診断をするのが有効とされており、国のマニュアルにも示されている手法です。

(B委員)

5ページの25番に広報施策の充実とあり、市政だよりなどいろいろなところ

で広報しているようですが、関心がなかったためかあまり見ていないなというのが正直なところでは。

指標として2部とありますが、市政だよりに2回掲載したということですか。

それから、秋の市民まつりは人も多く来ていて、内容もとても参考になったのですが、水源バスツアーとか社会科見学はどれくらい参加者がありましたか。
(事務局)

バスツアーについては、小学生とその保護者の方計30名弱で、社会科見学は小学校を対象としたもので4,000人程度、秋の市民まつりは新型コロナウイルス感染拡大のために、今年度は実施できませんでしたが、例年2,000人を超える方がいらしています。

市政だよりにについては、2回掲載したという意味で、バスツアーの案内や冬季の凍結防止などの案内をさせていただいています。

(F委員)

4ページの18番の実績にある水源地下草刈活動は中止とあるが評価は達成となっています。また、5ページの25番は広報施策の充実としてホームページ掲載内容の更新及び充実とありますが、数値目標がないため分かりにくく、それぞれ何をもって達成としているのですか。

(事務局)

ホームページの掲載内容の更新及び充実については、情報を適時に更新していることをもって達成と評価しました。

水源地下草刈活動については、例年7月に外部団体と共催しているもので、昨年度は準備していたものの天候不良により当日の活動は中止したものです。取組みの必要性などの意識啓発を図り準備していたこと、この他の活動は実施していたことを踏まえ、達成と評価しました。

(G委員)

4ページの14番・15番に新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、業務継続計画（BCP）の修正に関することが書いてありますが、優先順位の再検討はどのように行ったのでしょうか。

(事務局)

新型コロナウイルスのBCPは、市のBCPに基づいたものであったため、市全体のBCPの修正に合わせて業務の優先順位を再検討したものです。

従来のBCPは、業務が課ごとの「事務分掌」に沿ったものだったため、より細かく業務を洗い出し、業務ごとに明確にしました。

(G委員)

簡単で結構なので、具体的な業務をどのように見直したのか説明いただけないでしょうか。

(事務局)

例えば、窓口業務や人事・労務に関する業務などについて、業務内容を細か

く洗い出し、優先度に応じて、強化・継続・縮小・中止する業務に分類しました。

(事務局)

新型コロナウイルスの話がでましたので、先日の第12回審議会で収益への影響について説明させていただいた内容を一部修正させていただきたいと思いません。

第12回の審議会では、新型コロナウイルス感染症は収益に影響していないと説明したように、給水量全体の変動はありません。しかしながら、大口の需要者の給水量が減り、小口の需要者の給水量が増えてきており、大口の方はより単価が高くなりますので、結果として、給水収益が少し下がってきています。

(議題3) 上下水道ビジョンの策定について

資料3に基づき、事務局が説明した。

事務局の説明後、次の趣旨の質疑・提案がなされた。

(G委員)

18ページのコラムにある図は、字が小さくて読めないのもう少し大きくして、読みやすくできないでしょうか。

(事務局)

コラムの図は、7ページのピラミッド型の体系図を補足するために、個別具体的な内容を見せるというよりも、ピラミッドの階層間のつながりを示すためのものです。ご意見のとおり、内容まで見えるように見直しをしたいと思います。

(B委員)

33ページで、写真が本文に沿っていないように思います。また、34ページの内容は、先ほど説明された内容を文面に入れるといいのではないのでしょうか。

無駄なイラストが多く、空いているスペースが多いので、もう少し文面を追加した方がよいと思う所が何か所がありました。

(事務局)

水源保全の関係については、ご指摘のとおり今年度行っていることも記載していきたいと思えます。また、写真についてもよりよいものを検討します。

また、このビジョン策定に際しては、市民の皆様に分かりやすいように、できるだけ表や絵を使うということを考え、図やグラフ、写真を使って説明することを心掛けてきました。空いている部分や意図がわかりづらい挿絵については、内容に通じるような良い写真等を選んでいきたいと思えます。

(F委員)

31ページ・32ページに浄水場等が老朽化とあります。男川浄水場を作ったところですが、仁木浄水場も老朽化が進んでいるということでしょうか。また、このビジョンの計画期間10年の間に具体的な更新計画があるのでしょうか。も

しあるなら具体的に施策に書いたほうが良いと思います。

(事務局)

現在のところ、浄水場の更新計画はありません。

31ページの浄水場等には浄水場以外の配水場、送水ポンプ等なども含んでいます。少しわかりづらい表現ですので、言葉を再考します。

(H委員)

32ページの目標の老朽化率については、上がってしまうのを抑えてしまうことが目標ということですが、もっと長期の計画があって、老朽化率はどこかで上昇が止まり、減っていくということによいでしょうか。この数字だけ見るとそれがわからないので、そのあたりのことが分かるような表現ができないでしょうか。

(事務局)

現在、アセットマネジメントの中でも特にモノについては、100年レベルで将来の動向を捉えて、検証を進めています。老朽化率の将来的な推移も検討中ですので、この結果を踏まえながら経営戦略等でお示ししていきたいと考えています。

(F委員)

令和12年度の時点では、途中経過として何パーセントとしているものがあると思うが、最終的に何パーセントというものがあるのであれば、示してもらえるといいと思う。

15ページで、水需要の推計について、2030年から2035年で若干横ばいになるのはなぜでしょうか。

(事務局)

配水量の推計は、時系列分析によって現在までの傾向から推計したものです。ご質問の部分については、家庭用ではなく、業務用で少し伸びているのが要因になっていると思われます。

(D委員)

34ページで効果的な情報発信に、「情報公開を積極的に実施します。」とありますが、社会見学とか水源バスツアーなど、そんなに積極的に行っておらず、市政だよりについても1年に2回しかありません。上下水道について毎月の市政だよりにもコラムを出すなど、将来的な水需要減などの情報を市民に向けて積極的に発信していくことで、収入が減ってからのお知らせで、料金を上げるよりも前々からお知らせすることが市民にとってよりよいのではないかと思います。

(事務局)

情報発信としては、ホームページをはじめとして市政だよりを活用していきたいと考えていますが、紙面の都合もありなかなか事情が許さない部分もありますので、まずは、ホームページ等をご覧いただけるようにしていきたいと思

っていますし、市政だよりへの掲載は、機会を伺いながら情報公開を進めていくよう検討を進めたいと思います。

(A委員)

25ページの安定した水供給の確保の施策に水源の維持管理という言葉が出ています。この水源という言葉について、用語集では「浄水処理を行う水を採用する場所」と書いてありますが、水源が水を取るところと言われることには疑問があります。私としては水源涵養林と言われるように、山が水源ではないのかなという意識があるので、水を取るところだけを水源といわれると、寂しいなと思います。水源を保全するというと、やはり山に目を向けていただくということが必要で、次の100年へということであれば、こういう所に目を向けていただきたいです。

(事務局)

ご指摘のとおり、最近上下水道局で取り組んでいる水源保全では、乙川の上流域の水源林を守るということを考えているので、解説文を足すなどの見直しをしたいと思います。

(G委員)

15ページの図1-10だけが西暦表記になっています。ほかの図では元号で書いてあるので、わかりづらくなってしまいますので、元号を書いたほうが良いと思います。

(事務局)

ご指摘のとおりですので、修正させていただきたいと思います。

(I委員)

26ページの下水道災害対策トイレの写真は、できればマンホールの上に設置していることがわかるようにするといいと思います。

(事務局)

設置前の写真を入れてより分かりやすくしたいと思います。

10 上下水道部長挨拶

11 事務連絡

事務局から、次回、第14回水道事業及び下水道事業審議会の開催日程（令和2年11月18日）を連絡した。

会議資料

【事前送付資料】

次第

資料1 令和元年度水道事業及び下水道事業決算の概要（下水道事業経営ビジョンの進捗状況）について

資料2 岡崎市水道ビジョン第4期実施計画 令和元年度分 進捗状況報告書

【当日配布資料】

資料3-1 上下水道ビジョン案

資料3-2 上下水道ビジョン修正一覧

資料3-3 上下水道ビジョンの指標について